

■全国の文化芸術事業との比較

	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5
事業名称	藤野・ふるさと芸術村メッセージ事業 芸術の道（『藤のラブレター』）	はしもとアートラボ	大地の芸術祭	瀬戸内国際芸術祭	横浜トリエンナーレ
実施主体 （自治体／企業／実行委員会等）	相模原市	相模原市	大地の芸術祭実行委員会	瀬戸内国際芸術祭実行委員会	主催: 横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
場所（自治体名）	相模原市	相模原市	新潟県十日町市・津南町	香川県	横浜市
紐づく計画名	さがみはら文化芸術振興プラン	さがみはら文化芸術振興プラン	ニューにいがた里創プラン	香川県文化芸術振興計画	中期経営計画2022-2025
計画のキャッチフレーズ （目指す姿・ゴール等）	～心豊かに 人とまちが輝く 市民文化都市 さがみはら～	～心豊かに 人とまちが輝く 市民文化都市 さがみはら～	時代のパラダイムシフトを見据えた広域地域づくりプロジェクト	まちにくらしに文化芸術があふれ、みんながきらめく香川をつくる	2030年に向け 多様性Iに満ち、創造性あふれる横浜を目指して
計画の目的 （基本理念）	市民が文化芸術活動や鑑賞など文化芸術に触れることで、心に安らぎや生活の充実がもたらされる街、そして、市外も含めて多くの人々が集い、相模原の文化芸術に触れて、心の安らぎや生活の充実などの影響を受けることで、街全体が文化的な雰囲気包まれ、いきいきとして明るさがあふれる文化芸術が溶け込んだ街を目指す	市民が文化芸術活動や鑑賞など文化芸術に触れることで、心に安らぎや生活の充実がもたらされる街、そして、市外も含めて多くの人々が集い、相模原の文化芸術に触れて、心の安らぎや生活の充実などの影響を受けることで、街全体が文化的な雰囲気包まれ、いきいきとして明るさがあふれる文化芸術が溶け込んだ街を目指す	広域市町村圏を単位とし、統一のコンセプトに基づき地域づくりを行う	文化が持つ「人々の心を豊かにする力」、「地域社会を元気にする力」などにより、笑顔でいきいきと暮らせる香川の実現と持続をめざします。 すべての県民が将来にわたり自分たちの住むまちや暮らしに魅力を感じ、誇りを持ち続けるよう、また、その魅力が「香川で住んでみたい、訪れたい」につながるよう、本件が跨る文化的・芸術的創造力を原動力にして、誰もが輝き、どこよりも魅力的で元気な香川を実現することを政策目標として掲げます。	ミッション: 私たちは市民とともにアートの力を活かすことにより横浜の魅力を高め心豊かで活力に満ちた市民生活の実現を目指します ビジョン: 市民の参加や協業のアート活動により新たな出会いの機会と場が生まれ「創発する都市」横浜が世界に拓かれます
紐づく基本方針	基本目標Ⅴ 文化芸術を生かしたまちづくりの推進	基本目標Ⅱ 多彩な文化芸術を鑑賞する機会の創出／ 基本目標Ⅴ 文化芸術を生かしたまちづくりの推進	ニューにいがた里創プラン推進事業第一号	基本的な方針I 文化芸術を担う人づくり 基本的な方針Ⅲ 文化芸術による 地域づくり (1)瀬戸内国際芸術祭の開催	事業方針4 横浜の地域性を世界に開き、さまざまな文化との交流を促します 事業方針5 横浜固有の空間やネットワークを活かし、創造活動を行う人たちの挑戦を後押しします
紐づく施策	方向性Ⅰ 他分野との連携による文化芸術の価値や魅力の創出／方向性Ⅲ 特色ある文化芸術の積極的な発信	方向性Ⅰ 市民が気軽に文化芸術を鑑賞できる環境づくり／ 方向性Ⅰ 他分野との連携による文化芸術の価値や魅力の創出／方向性Ⅱ 文化芸術を支える主体同士の連携促進	超後援者アートネックレス整備構想	方針Ⅰ (2)子ども若者が文化芸術に触れ創造性等を育む機会の充実 方針Ⅲ (1)瀬戸内国際芸術祭の開催	12.横浜の地域性や、国内の文化芸術の多様性に触れる事業 13.国内外との共同制作や交流事業 14.横浜市のフェスティバル事業等への参画と街や地域の主体との連携事業 15.多様なジャンルを横断するプログラム、創造活動の場・雄偉的対話の場の創出 16.創作の過程やコンセプト等を発信 17.国内外の活動観察や会議への参加、他の劇場等との交流・連携事業
紐づく主な事業	文化資源を活用した観光振興／藤野地区等における文化芸術を生かした取組	アートラボはしもとの再整備／産業界等との連携体制の構築／様々な主体との協働・連携による地域の活性化	①ステキ発見、②花の道、③ステージづくり、④大地の芸術祭	瀬戸内国際芸術祭の開催／瀬戸内国際芸術祭の開催を通じた創造性の涵養とアーティストの育成	主催: 横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
その事業で何を目標しているか （事業の目的）	既存の文化芸術活動等の様々な文化資源を活用して、コンテンツの開発を進め、観光客等呼び込む／芸術家が多く在住する藤野地区等の特徴を生かした事業や催しを開催するとともに、野外展示作品を紹介するなど文化芸術を生かした地域振興を進める	大学等と連携して、アートを生かした地域の活性化を図る。様々なジャンルの文化団体を結ぶコーディネート機能を充実させ、コラボレーションによる新たな価値の創造に向けて取り組む	アートを活用して美しい里づくりを行うことによって、地域を見直し、そこに誇りと愛着を持ち、その再構築された魅力を世界に発信して交流人口を増加させる	地元市町の地域振興の方針に寄り添い、その実現に寄与するとともに、「瀬戸内国際芸術祭」へのアーティストの参加も広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示してきました。2001年の第1回展以来、世界情勢が目まぐるしく変化する時代の中で、世界と日本、社会と個人の関係を見つめ、アートの社会的な存在意義をより多角的な視点で問い直してきました。文化庁の支援を受けたナショナルプロジェクトとして、そして文化芸術創造都市・横浜を象徴するプロジェクトとして開催を重ね、多数の来場者を迎えています。	横浜トリエンナーレは、（中略）これまで、国際的に活躍するアーティストの作品を展示するほか、新進のアーティストも広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示してきました。2001年の第1回展以来、世界情勢が目まぐるしく変化する時代の中で、世界と日本、社会と個人の関係を見つめ、アートの社会的な存在意義をより多角的な視点で問い直してきました。文化庁の支援を受けたナショナルプロジェクトとして、そして文化芸術創造都市・横浜を象徴するプロジェクトとして開催を重ね、多数の来場者を迎えています。
事業の開始時期	1988年9月	2012年	2000年	2010年	2001年
年毎の動員数（5年間） （事業規模）	－	2023年 5,974人 2022年 2,317人 2021年 5,636人 2020年 3,225人 2019年 10,695人	2022年 574,138人 2018年 548,380人 2015年 510,690人 2012年 488,848人 2009年 375,311人	2022年 延べ約72万3千人 2019年 延べ約118万人 2016年 延べ約104万人 2013年 延べ約107万人 2010年 延べ約94万人	2024年 約58万人 2020年 約15.4万人 2017年 約26万人 2014年 約21万人 2011年 約33万人
年毎の参加団体数（5年間）	－	2023年 38組 2022年 17組 2021年 96組 2020年 54組 2019年 59組	2022年 109集落 2018年 102集落 2015年 110集落 2012年 102集落 2009年 92集落	2022年 33の国と地域から188組 2019年 32の国と地域から230組 2016年 34の国と地域から226組 2013年 26の国と地域から200組 2010年 18の国と地域から75組	2024年 93組 2020年 67組 2017年 約40組 2014年 79名 2011年 77組
年毎のかかった費用（5年間）	2007年決算見込 3,833 千円 2008年予算（事業費） 4,500 千円 2009年予算（事業費） 4,500 千円	－	2022年 1,418,792千円 2018年 1,495,851千円 2015年 1,146,254千円 2012年 863,329千円 2009年 603,964千円	2022年 1,225百万円 2019年 1,225百万円 2016年 1,276百万円 2013年 1,026百万円 2010年 689百万円	2024年 未公開 2020年 約10億円 2017年 約9.6億円 2014年 約9億円 2011年 約9億円
現在どうなっているか （事業継続／事業縮小／廃止等）	市民主導（事業廃止？）	一時閉館	事業継続	事業継続	事業継続
その理由（〇〇により廃止等）	当初、神奈川県重点政策の一つとして、相模川を面て捉え、広域を対象に一つの個別計画を作るという地域横断型のプロジェクトの流れから生まれた「藤野ふるさと芸術村構想」による事業だった。芸術家が多く移り住み、現在は市民主導による自由なカルチャーが形成されており、季節ごとの事業を行っている。	建物の再整備のために2021年8月に一時閉館し、現在は仮事務所を市立青少年学習センターに置き、再整備事業と並行しながらアウトリーチを中心としたプログラムを展開している。	2024年7月13日～11月10日 第9回開催	2024年4月～11月 第6回開催	
観光（にぎわい・人数） 5：数十万以上／4：10万人以上 3：5万人以上／2：1万人以上 1：それ以下	1	1	5	5	5
市民・地域 5：市民のみ対象／4：周辺含む 3：周辺以外も含む／2：市民対象と書いていない 1：明らかな観光向け	4	3	2	2	1
市外・インバウンド 5：観光向け／4：市民対象と書いていない 3：周辺以外も含む／2：周辺含む 1：市民のみ対象	2	3	5	5	5
自然との共生 5：事業名称にエコ／4：目的にエコ 3：どちらもない／2：新規土地開発が含まれている 1：大規模開発	5	3	5	4	3
コスト 5：民間が実施／4：少し自治体が絡む 3：官民ともに実施／2：少し企業が協賛 1：自治体のみ	4	3	3	3	3

■全国の文化芸術事業との比較

	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
事業名称	海老名駅自由通路の利用	横浜市 神奈川県立音楽堂「音楽堂のピクニック」	山口県山口市 山口情報芸術センター〔YCAM〕	浜松市 浜松市アクトシティ音楽院	ハッピーネス・ヒル・幸田(幸田町民会館)
実施主体 (自治体／企業／実行委員会等)	小田急・相鉄グループ(指定管理者)	神奈川県立音楽堂（指定管理者：公益財団法人神奈川芸術文化財団）	(公財) 山口市文化振興財団	公益財団法人浜松市文化振興財団	幸田町文化振興協会（指定管理者）
場所（自治体名）	海老名市	神奈川県	山口市	浜松市	幸田町（愛知県額田郡）
紐づく計画名	海老名市マスタープラン	令和6(2024)年度事業計画（公益財団法人神奈川芸術文化財団）	山口市文化振興 ビジョン	浜松市総合計画	第6次幸田町総合計画
行政計画について	計画のキャッチフレーズ (目指す姿・ゴール等)	都市づくりの基本理念：まちの活力と暮らしの質を高める都市づくり  【財団の「理念」と3つの「視点」】 1 財団の「理念」 私たちは、その想像力と創造性を活用し、芸術文化の価値を高めます。 私たちは、芸術文化の力で、地域に生きる人々の心を豊かにし、幸福な社会の実現に貢献 します。 2 3つの「視点」（財団の「理念」に次の3つの視点を持って向きあっています。） 視点1「革新性」、視点2「国際性」、視点3「多様性」	個性が躍る 次世代が芽吹く 創造文化都市やまぐち ～その先の文化と暮らしを育むまち～	市民協働で築く『未来へかかやく創造都市・浜松』	めざすべき将来像「みんなでつくる元気な幸田」
	計画の目的 (基本理念)	基本目標1 魅力的な拠点による賑わいや活力のある都市 基本目標4 豊かな表情を持つ良好な都市景観のある都市  【第4期指定管理における重点テーマと主な取組】 1「各館のブランディングの強化と3館一体の推進」 2「あらゆる人々へ開かれた場」 3「地域との連携」の強化～「繋がりの実現」 4「今後予測される厳しい財政環境への対応」	基本的方向 (1)西の京に受け継がれた歴史や文化、自然が調和するまち (2)暮らしの中に息づく、多彩な文化芸術活動が生まれるまち (3)個性豊かな文化を未来へつなぐ人材が育まれるまち (4)まちや人の個性が躍る、賑わいや交流、新たな価値が生まれるまち	6 文 化 ・ 生 産 学 習 浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿(30 年後)：創造都市を実現し、音楽の都として世界から注目されている。  10 年後の目標(政策の柱) ◆音楽などの芸術をきっかけとして新たな文化や産業が創出されている。◆多様な歴史・文化による豊かさやスポーツによる喜びを市民が実感している。	明治元年の22村が23の区(地域)になり現在の幸田町を支えています。 それぞれの地域に応じた支え合いが地域の元気になり、まちの元気になっていきます。 年齢、性別を問わず、地域への想いを抱くみなさんと行政が共にそれぞれの役割を果たしながら、みんなで幸田町を育てていく。 そんな思いを込め将来像を定めました。
	紐づく基本方針	都市交流拠点：本市の玄関口及び中心市街地として、ショッピングやレクリエーション機能、業務機能等を備えた、賑わいのある商業業務空間を舞台に、「人・物・文化」が交流する都市拠点を形成 します。 ◇海老名駅周辺	施設維持管理における共通目標 4 ミッション「未来につなぐ」	【基本 構 想】都市の将来像 技術も文化も国際色豊かな クリエイティブシティ 【創造都市】	基本目標 第5章 【教育・文化】きたえよう！こことからだ
	紐づく施策	◇海老名駅駅間地区における都市型居住機能、商業・業務機能、文化・教育機能等の集積 ◇海老名駅東口地区における商業・業務・文化レクリエーション機能の集積 ◇海老名駅自由通路の延伸	・芸術文化の担い手の育成 ・次世代への継承 ・創造性やコミュニケーション力を養う教育の拠点	(3)国内外に向けた情報発信力の強化 重点プロジェクト事業2 次世代の芽吹きプロジェクト	3 幸田の歴史、文化を大切にしている 3-2 文化の振興
事業について	紐づく主な事業	海老名駅自由通路の利用	子どもと大人の音楽堂<子ども編><大人編> 第 57 回音楽堂クリスマス 音楽会 音楽堂アウトリーチ <社会連携ポータル事業> 子どものための公開リハーサル 音楽堂人材育成事業	○国内外におけるYCAMのアート作品の巡回 重点プロジェクト事業2 次世代の芽吹きプロジェクト_2 創造性豊かな人づくり	芸術文化人材育成事業
	その事業で何を目標しているか (事業の目的)	記載なし	地域の人々に向けてホールを開き、次世代を呼び込むことをめざす「子どもと大人の音楽堂」では、多言語・多文化家庭の子どもたちを主な対象とした<子ども編>と、30 代前後の若い感 性で音楽堂全体を楽しむ企画<大人編>を開催する。	本市では今後も、グローバル化が進展し、テクノロジーが次々と生み出される中で、技術開発力や応用可能性への研究力を高め、教育現場や地域との連携、さらには世界 との交流を進め、未来を担う子どもたちの柔軟な発想や創造性を育てていきます。 また、文化芸術を支え、アートと暮らしをつなぐ人材や、イノベーション創出に貢 献できる創造的・専門性の高い人材の育成を図ります。	世界から浜松に音楽が集まり、音楽文化と音楽産業が育つ音楽文化都市の実現の為、気軽に音楽文化に触れることができる機会の提供から、音楽指導者やコンサート主催者となる人材の育成、国内外から人材を築め浜松からはばたく音楽文化を担う演奏家の育成まで幅広く様々な音楽ソフト事業を包括し、連携を強化し、質の高い文化芸術 の提供や内容の充実に努め、文化芸術の裾野を広げていきます。
	事業の開始時期	2023年？	2023年	2003年	1998年開校
	年毎の動員数（5年間） (事業規模)		2024年 未発表 2023年 中止 2022年 子どもと大人の音楽堂 <子ども編>せかいはいもだち! 1,230人 <大人編>音楽堂のピクニック 337人（+ホワイエ30人） <ディープ大人編>557人	2021年 378,296 人 2020年 336,379 人 2019年 597,960 人 2018年 741,508 人 2017年 653,798 人	2023年 42,209 人 2022年 35,713 人 2021年 20,460 人 2020年 20,405 人 2019年 52,671 人
	年毎の参加団体数（5年間）	不明	2024年 9 企画 2023年 中止 2022年 21企画（子どもと大人の音楽堂）	2021年 31事業 2020年 19事業 2019年 52事業 2018年 55事業 2017年 53事業	2023年 12 事業 2022年 12 事業 2021年 10 事業 2020年 11 事業 2019年 11 事業
	年毎のかかった費用（5年間）	不明	不明	2021年 305,140,375円 2020年 271,461,298円 2019年 238,715,000円 2018年 325,846,073円 2017年 263,983,800円	2024年予算 42,215 千円 他不明
	現在どうなっているか (事業継続／事業縮小／廃止等)	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続
	その理由（〇〇により廃止等）				
評価（5段階評価）	観光（にぎわい・人数） 5：数十万以上／4：10万人以上 3：5万人以上／2：1万人以上 1：それ以下	-	1	5	2
	市民・地域 5：市民のみ対象／4：周辺含む 3：周辺以外も含む／2：市民対象と書いていない 1：明らかな観光向け	2	4	3	5
	市外・インバウンド 5：観光向け／4：市民対象と書いていない 3：周辺以外も含む／2：周辺含む 1：市民のみ対象	4	2	3	1
	自然との共生 5：事業名称にエコ／4：目的にエコ 3：どちらもない／2：新規土地開発が含まれている 1：大規模開発	3	3	3	3
	コスト 5：民間が実施／4：少し自治体が絡む 3：官民ともに実施／2：少し企業が協賛 1：自治体のみ	3	1	2	1

■全国の文化芸術事業との比較

	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15		
	事業名称	セイジ・オザワ 松本フェスティバル（OMF）	パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）	定禅寺ストリートジャズフェスティバル	横浜市芸術文化教育プラットフォーム「アーティストが学校へ」	ヘブンアーティスト	
	実施主体 （自治体／企業／実行委員会等）	主催：セイジ・オザワ 松本フェスティバル実行委員会／公益財団法人サイトウ・キネン財団 共催：長野県／松本市	公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会	主催器益社団法人 定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会 共催器益城県、仙台市	認定N P O法人 S T スポット横浜 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市教育委員会 横浜市内にぎわいスポーツ文化局	東京都 東京都生活文化スポーツ局 文化振興部 文化事業課	
	場所（自治体名）	長野県／松本市	札幌市	仙台市	横浜市	東京都	
行政計画について	紐づく計画名	第2次長野県文化芸術振興計画	第4期札幌市文化芸術基本計画	仙台市文化芸術 推進基本計画	横浜市中期4か年計画2022～2025	東京文化戦略2030	
	計画のキャッチフレーズ （目指す姿・ゴール等）	【基本目標】 文化芸術の価値を高め、支える、ひろげる、つなげる、信州のゆたかな未来	（略）重要性が増すにつれ、文化芸術は産業・まちづくり・教育・福祉などの他分野 と密接に結びつき機能することが期待され、これからの文化行政には、文化芸術の分野 にとどまらない広い視野を持って臨むことが求められていると考えています。 こうした考えの下、文化芸術と他分野との連携を一つの柱とした第4期札幌市文化 芸術基本計画を策定いたしました。 この計画を通じて、文化芸術のさらなる継承・発展・創造のみならず、私たちのまちの魅力をより一層高めることを目指します。	基本理念 多様な個性が輝き、まちの未来を拓く ～ひとりひとりがよりよく生きる文化芸術の杜～	共にめざす都市像「明日をひらく都市」	芸術文化で躍動する都市東京	
	計画の目的 （基本理念）	めざす姿： ・誰もが文化芸術と触れあい、心豊かに暮らしている ・文化芸術があらゆる分野に根づき生かされている ・文化芸術活動や伝統文化が地域で支えられ、その価値が引き継がれている	ステージ 1 機会の充実 あらゆる人が容易に文化芸術に触れられる環境を充実させることで、多様な価値観が尊重される社会を実現するとともに様々な場面で創造的な活動につなげていきます。 ステージ2 未来への布石、育成、支援 未来を担う子どもたちへ継続的に文化芸術に親しむ機会を提供するとともに、文化芸術を支える仕組みや人材の育成などの環境整備を行います。 ステージ3 文化資源の保存・活用 文化芸術や文化財が持つ創造性や価値を適切に保存継承しながら効果的に活用し、まちの活性化や札幌のブランド発信につなげます。 ステージ4 文化芸術の領域の拡大 様々な分野との連携を高め、さらなるまちの活性化や効果的な投資、イノベーションにつなげ、文化芸術の多様な可能性を高めるために、アーティスト支援を充実させます。	目指す姿 1 あらゆる人に 参加機会がひ らかれ、文化芸 術に親しめる まち 2 多様な文化芸 術活動が展開 され、その担い 手が育まれる まち 3 子どものときから文化芸術との出会いがあり、若者のチャレンジを応援するまち 4 歴史と記憶が継承され、未来を築く礎となるまち 5 文化芸術によって都市の個性が磨かれ、人を惹きつけ躍動するまち	市民生活の未来「暮らしやすく誰もがWELL-BEINGを実現できるまち」 都市の未来「人や企業が集い、つながり、新しい価値を生み出し続けるまち」 都市基盤の未来「変化する時代・社会に適応し、市民生活や都市を支える新しい在り方を実現し続けるまち」	1 都民の誰もが身近に芸術文化に触れることのできる環境が整い、アーティストが成長 2 楽しむ、発見する、育てる、創造する好循環が生み出されることで、アートシーンが拡大 3 芸術文化で東京が躍動し、都民の生活がより豊かになる	
	紐づく基本方針	めざす姿：誰もが文化芸術と触れあい、心豊かに暮らしている 施策の方向性：文化芸術の実践者への支援の充実 施策の方向性：文化芸術に参加できる機会の拡大	すべて	重点プロジェクト4 文化コンテンツによる賑わい創出プロジェクト	戦略6 「成長と活力を生み出す都心・臨海部のまちづくり」	【戦略1】誰もが芸術文化に身近に触れられる 環境を整え、人 々の幸せに寄与する ～人々のウェルビーイングの実現に貢献する～	
	紐づく施策	施策の展開：世界水準の文化芸術を目指す機会の創出 施策の展開：表現の場の創出	施策1-1 多様な文化芸術に親しむ機会の提供(機会の充実) 施策2-1 子どもたちの文化芸術活動の充実(未来への布石、育成、支援) 施策2-2 文化芸術を支える土壌づくり(未来への布石、育成、支援) 施策3-2 札幌の文化芸術を通じた国内外への魅力発信(文化資源の保存・活用) 施策4-1 文化芸術の創造性を生かした様々な分野との連携・活用(文化芸術の領域拡大) 施策4-2 アーティスト支援の充実(文化芸術の領域拡大)	基本施策11 多様なコンテンツを生かした賑わい創出	「政策30 市民に身近な文化芸術創造都市の推進」 「主な施策1 文化芸術を通じた次世代育成と共生社会実現に向けた取組」	プロジェクト№1 地域活性化プロジェクト（芸術文化の敷居を低くする取組）	
	紐づく主な事業	・OMFを通じた子どもたちが世界水準の芸術を目指す機会の提供 ・セイジ・オザワ 松本フェスティバルや国際芸術祭等の開催支援	PMF（パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌） PMF リンクアップ・コンサート、吹奏楽セミナー 芸術・文化の振興PMF清田区公演「PMF アンサンブル演奏会」 道内他市町村 との連携 各種イベントにおける 海外アーティストの 招へい	まつり等の開催支援	芸術文化教育プログラム推進事業	文化戦略プロジェクト事業1-3 ヘブンアーティスト事業	
	その事業で何を目標しているか （事業の目的）	・世界水準の文化芸術を目指す機会の創出 世界水準の文化芸術に県民が触れ、学べる機会を提供することで、子どもたちの感受性を高めるとともに、世界を目指すアーティストの育成にもつなげていきます。 ・表現の場の創出 地域主体の先進的な取組の支援や、地域で活躍する団体等の表現の場を創出することにより、県内での文化芸術活動の活性化を図ります。	札幌の中心部など、市民にとって身近な場所で、世界水準の優れた音楽を気軽に聞くことができるコンサートを開催し、市民の感性や創造性を育むとともに、にぎわいの創出を目指しています。	交流人口のさらなる拡大と地域経済の活性化を図るため、まつり等の大型観光イベントの開催を支援し、観光客の誘致を進めます。	学校や文化施設において、子どもたちの創造性や感受性を育むための文化芸術体験等の次世代育成や、障害の有無・国籍・居住エリア等にかかわらず、文化施設や身近な地域で、誰もが文化芸術に触れる機会を充実させます。	都立公園や都内民間施設などの公共空間を活動場所として指定し、様々なアーティストに開放することで、都民や東京都を訪れた方が気軽に芸術文化に触れる機会を提供するとともに、アーティストの技芸研鑽の場を確保し、新たな文化創造支援と東京の魅力発信を図る。	
	事業の開始時期	1992年（2015年に名称変更）	1990年	1991年	2008年	2002年	
	事業について	年毎の動員数（5年間） （事業規模）	2023年 69,827 人 2022年 71,870 人 2021年 850 人（YouTube配信2日間延約12万人） 2020年 - 人 2019年 74,434 人	2024年 約21,200 人 2023年 17,724 人 2022年 20,754 人 2021年 5,314 人	2023年 55万人 2022年 20万人 2021年 - 2020年 - 2019年 5,131 人	2023年 13,554人 2022年 12,799人 2021年 12,823人 2020年 10,714人 2019年 14,306人	
		年毎の参加団体数（5年間）	2023年 8 公演 2022年 11 公演 2021年 8 公演（中止または配信のみ実施） 2020年 8 公演（中止） 2019年 10 公演	2024年 約28公演 2023年 約25公演 2022年 約20公演 2021年 約25 公演 2020年 約40公演	2023年 415組 2022年 86組 2021年 77組 2020年 - 2019年 710組	2023年 144 校 2022年 143 校 2021年 139 校 2020年 126 校 2019年 145 校	登録アーティスト（2024年9月現在） パフォーマンス部門 386組 音楽部門 99組
年毎のかかった費用（5年間）		長野県の共催負担金：2024年 100百万円 ▶2022年度事業収支（主催財団の事業報告） 経常収益 6 億9,429万円 経常費用 8億7,720万円 うち事業費 8億4,143万円	（財団経常費用計） 2024年 507,157,000 円 2023年 497,545,000 円 2022年 494,807,000 円 2021年 316,227,000 円 2020年 591,716,000	（フェスティバル事業費） 2023年 25,206千円 2022年 15,128千円 2021年 - 2020年 - 2019年 30,398千円	2023年 34,940 千円 2022年 34,940 千円 2021年 37,320 千円 2020年 33,728 千円 2019年 37,263 千円	不明	
現在どうなっているか （事業継続／事業縮小／廃止等）		事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	事業継続	
その理由（〇〇により廃止等）							
評価（5段階評価）	観光（にぎわい・人数） 5：数十万以上／4：10万人以上 3：5万人以上／2：1万人以上 1：それ以下	3	2	5	2	-	
	市民・地域 5：市民のみ対象／4：周辺含む 3：周辺以外も含む／2：市民対象と書いていない 1：明らかな観光向け	2	1	1	5	2	
	市外・インバウンド 5：観光向け／4：市民対象と書いていない 3：周辺以外も含む／2：周辺含む 1：市民のみ対象	5	5	5	1	4	
	自然との共生 5：事業名称にエコ／4：目的にエコ 3：どちらもない／2：新規土地開発が含まれている 1：大規模開発	3	3	3	3	3	
	コスト 5：民間が実施／4：少し自治体が絡む 3：官民ともに実施／2：少し企業が協賛 1：自治体のみ	3	3	4	1	1	

■全国の文化芸術事業との比較

	No.16	No.17	No.18	No.19	No.20
事業名称	金沢市民芸術村	せんだい演劇工房10-BOX	アーツカウンシル東京 TURN	博多座	伝承のたまご 多摩伝統文化フェスティバル
実施主体 （自治体／企業／実行委員会等）	公益財団法人金沢芸術創造財団事業報告（指定管理者）	公益財団法人仙台市市民文化事業団	東京都	福岡市（指定管理者：株式会社博多座）	主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、八王子市、公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団
場所（自治体名）	金沢市	仙台市	東京都	福岡市	八王子市
行政計画について	紐づく計画名	仙台市文化芸術 推進基本計画	東京文化ビジョン	福岡市文化芸術振興計画	八王子ビジョン 2022
	計画のキャッチフレーズ （目指す姿・ゴール等）	基本理念 「世界に誇る文化都市・金沢の実現」を基本理念とし、20 年先、30 年先には世界中から憧れを抱かれる文化都市となることを目指します。	基本理念 多様な個性が輝き、まちの未来を拓く ～ひとりひとりがよりよく生きる文化芸術の杜～	基本理念 「すべての人々にとっての文化芸術、未来に向けての文化芸術」	まちづくりの基本理念 人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを紡ぐまち八王子
	計画の目的 （基本理念）	方向性 1 心の豊かさの醸成 方向性 2 未来への継承と発展 方向性 3 活動環境の充実 方向性 4 幅広い文化の発信	ビジョンの理念 ・東京独自の芸術文化が持つ多様性を発信する ・東京の更なる成長の柱として芸術文化を位置づける ・オリンピック・パラリンピックを契機に 有形・無形の文化レガシーを創出する ・東京を舞台にあらゆる人々の交流と 世界中の芸術家の創造活動を促進し、芸術文化の力を世界平和の実現につなげていく ・芸術文化の力で東京を変える 取組を全国に広げ、文化が牽引する新たな日本をあらゆる人々の力を結集して創出する	基本目標 「文化芸術による、元気で、多彩な人々が集う街を目指して」	都市像(私たちが目指すまち) まちづくりの基本理念に基づき、主要な政策別に次のとおり6つの都市像を定めます。 1 みんなで担う公共と協働のまち 2 健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち 3 生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち 4 安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち 5 魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち 6 一人ひとりが育て、人と自然が豊かにつながるまち
	紐づく基本方針	方向性 2 未来への継承と発展 方向性 3 活動環境の充実	目指す姿 1 あらゆる人に 参加機会がひらかれ、文化芸術に親しめる まち 5 文化芸術によって都市の個性が磨かれ、人を惹きつけ躍動するまち	文化戦略 3 あらゆる人が 芸術文化を享受できる 社会基盤を構築	政策目標2 文化芸術が都市の魅力・価値となるまちづくり 第3編 生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち 第4章 未来につながる文化の継承と創造
	紐づく施策	方向性 2 未来への継承と発展：金沢市民芸術村現代建築レガシーの継承 方向性 3 活動環境の充実：金沢市民芸術村のリニューアル、文化施設の管理運営	目指す姿1 基本施策1 文化芸術に親しめる環境づくり 目指す姿5 基本施策9「楽都仙台」「劇都仙台」の推進	障害者アートへの支援や障害者の鑑賞・参加を促す活動の推進等、文化の面で世界で最も進んだバリアフリーな都市として認知される取組の展開	施策方針2 歴史文化等を活かした観光・集客の促進 環境・仕組みづくり1 文化芸術を支える各種文化施設の適正な役割分担と連携
事業について	紐づく主な事業	金沢市民芸術村	■各文化施設の取組みの充実 ■せんだい短編戯曲賞 ■市民の演劇鑑賞機会の創出 ■舞台芸術の担い手育成事業	TURN Center（仮） TURN Festival（仮）	1「テーマ性のある文化施設」の魅力向上による集客機能の強化  (3)八王子の魅力高める文化芸術の振興 文化芸術活動の推進
	その事業で何を目標しているか （事業の目的）	金沢市民芸術村は、時代を担う若者たちの文化活動の育成を図り、市民の多彩な創作活動を支え、個性豊かな地域の文化芸術を醸成してきた金沢の DNA を紡ぐ場となることを目指しています。	本市では市民による音楽活動や演劇が盛んなまちであることから、「楽都仙台」「劇都仙台」を掲げ、その推進を図ってきました。現在整備を進めている複合施設は、実演芸術を中心とした本市の文化芸術の総合拠点となるものであり、楽都・劇都をさらに発展させる大きなきっかけとなるものです。こうした動きを見据えながら、引き続き、これらの都市個性を磨き上げるための様々な事業を展開し、これからの本市のシビックプライドにつなげます。	絵画や彫刻などの造形活動、演劇や音楽などの創作活動、多様性に関する対話等を含め、日々の営みの中で生み出されるあらゆる表現を通して、障害・健常の別なく人々が関わり合い、「生来の力」を発揮し合うプログラムを展開。	質の高い文化芸術を体験できる場として、舞台芸術や美術などの「テーマ性のある文化施設」が設置されており、今後、本市が設置するミュージアム3館、博多座 等については、集客機能の強化に向け、さらなる魅力の向上を図り、発信力を高めていきます。 ■博多座 本格的な歌舞伎やミュージカル等の公演のほか、自主制作演目の上演等を推進し、魅力ある公演ラインナップを提供していくことで集客力の強化を図るとともに、地域との連携をさらに進め、博多旧市街エリアの賑わいの創出にも貢献していきます。
	事業の開始時期	1996年	2002年	2015年	1999年
	年毎の動員数（5年間） （事業規模）	2022年 135,774 人 2021年 74,947 人 2020年 59,293 人 2019年 166,573 人 2018年 202,432 人	不明	累計参加者数 2015～2021 年:約 96,000 人(オンライン含む)	年間約50万人  2022年 2021年 (コロナによる中止や無観客オンライン配信) 2020年 (コロナによる中止や無観客オンライン配信) 2019年 約 37,000 人 2018年 約 35,000 人
	年毎の参加団体数（5年間）	不明	不明	累計参加団体数 2015～2021 年:約 80 名のアーティスト、約 60 の施設や団体	年間約50万人  2022年 多摩30市町村のうち 8 市町の伝統文化の実演や展示紹介、WEB サイトで21市町の伝統文化を紹介 2021年 (コロナによる中止や無観客オンライン配信) 2020年 (コロナによる中止や無観客オンライン配信) 2019年 2018年
	年毎のかかった費用（5年間）	運営費 収入 指定管理料 1億3866万円 雑収入 541万円（利用料） 支出 施設管理運営費 1億1057万円（電気代、修理代等、様々な運営費） 人件費 3350万円	不明	不明	2023年度決算 売上高 49億2,600万円（+20.09%） 営業利益 1億7,300万円（黒字転換） 経常利益 3億3,600万円（▲36.48%） 純利益 2億8,100万円（▲37.83%）  2019年 八王子市予算 4,000千円 2021年 4,000千円
	現在どうなっているか （事業継続／事業縮小／廃止等）	事業継続	事業継続	2021年終了	事業継続
	その理由（〇〇により廃止等）			アーツカウンシル東京としての事業は、東京大会終了により2021年終了。現在は東京藝術大学が、これまで育ててきた施設や団体等との関係性や気付きを継承しながら、新たなフェーズの事業としてTURNを推進している。	
評価（5段階評価）	観光（にぎわい・人数） 5：数十万以上／4：10万人以上 3：5万人以上／2：1万人以上 1：それ以下	4	1	2	3
	市民・地域 5：市民のみ対象／4：周辺含む 3：周辺以外も含む／2：市民対象と書いていない 1：明らかな観光向け	3	2	2	4
	市外・インバウンド 5：観光向け／4：市民対象と書いていない 3：周辺以外も含む／2：周辺含む 1：市民のみ対象	3	4	4	2
	自然との共生 5：事業名称にエコ／4：目的にエコ 3：どちらもない／2：新規土地開発が含まれている 1：大規模開発	4	3	3	3
	コスト 5：民間が実施／4：少し自治体が絡む 3：官民ともに実施／2：少し企業が協賛 1：自治体のみ	1	1	1	2